



## 全国学力・学習状況調査の結果について

### 1. 学力面について

正答率(%)		
教科	全国(公立)	兵庫県(公立)
国語	58.1	58.0
数学	52.5	55.0

令和6年4月18日に行われた全国学力学習状況調査の個人票を2学期の始業式で返却しています。加古川中学校の平均正答率は、全国及び兵庫県と同程度になっていました。

(注意) 文部科学省、加古川市教育委員会の方針により、各学校の正答率は公表しないことになっています。

#### ①国語

##### 《優れているところ》

- ・県や全国と比べて全体的に同程度の正答率であるが、特に説明文の読解に優れており、文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係をとらえることができている。
- ・短歌に用いられている表現技法を答える問題での正答率が高く、短歌に対する基本的知識は定着していると考えられる。
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと考えている生徒の割合が大きく、学習意欲が高いと考えられる。

##### 《課題とされるところ》

- ・県や全国平均と比べて、記述式の問題の無回答率が高い傾向がある。特に、本文の内容を理解するために、着目する内容を決めて要約する問題では、正答率が低いのに対し、無回答率は高くなっており、読解したことを書いて表現することに苦手意識を持つ生徒が多い傾向があるとうかがえる。
- ・文脈に即して漢字を正しく書く問題の正答率が低いことから、漢字の書き取りに力を入れて取り組む必要がある。

#### ②数学

##### 《優れているところ》

- ・県や全国に比べて、関数、データの活用の正答率が高い傾向にあり、基本的な知識・技能が定着していると考えられる。
- ・(1)(2)(3)と続くような文章の長い問題でも、大問を通して無解答率が高くなっていないことから、わかる問題は解答しようという意識が見られる。

##### 《課題とされるところ》

- ・図形の問題の正答率が低い傾向が見られる。特に図形の合同を証明する問題や、角の大きさに関する問題に課題が見られる。
- ・数と式の領域に関する問題の正答率が低い傾向にある。単純な計算や目的に応じた式の変形など、基本的な技能が定着していないこと、数式が持つ意味の読み取りや、それを用いた説明に苦手意識を持っていることがうかがえる。

- ・記述式の問題の無解答率が県、全国と比べて高い傾向にある。前述した図形の合同を証明する問題をはじめ、自分の考えを文章や数式で表し、数学的表現を用いて説明することに苦手意識をもっている生徒が多い。

## 2. 学習状況について ※生活面について

### 《優れているところ》

- ・朝食を毎日食べる、就寝・起床時間が定まっているなど、規則正しい生活を送れている生徒が多い。
- ・健康に過ごすために、学校で学んだことを普段の生活に役立てている生徒の割合が大変多い。
- ・自分に良いところがあると思う生徒の割合が多い。
- ・友だち関係に満足している生徒が多く、学校に行くのは楽しいと感じている生徒も多い。
- ・先生に自分の良いところを認めてもらったり、困りごとや不安がある時に相談に乗ってもらったりできている生徒が多く、教師との関係性を良いと感じている生徒が多い。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている生徒の割合が大変多く、人が困っているときは、進んで助けているという生徒が多い。
- ・人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒が多い。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている生徒が多い。
- ・学校の授業時間以外に、2時間以上勉強している生徒の割合が多い。
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互い協力しながら課題の解決に取り組んでいると考えている生徒が多い。
- ・これまでの授業で ICT を利用している頻度は非常に多く、自分のペースで学習を進めることができる、画像・動画の利用で学習内容をよく理解できる、自分の考えを分かりやすく伝えることができるなど、ICT を使うことの利点をよく理解し、使用していることが分かる。

### 《課題とされるところ》

- ・明確な将来の夢や目標を持っている生徒が少ない。
- ・新聞を読んでいる生徒が大変少ない。
- ・普段の日に、1日当たり2時間以上、ゲーム(コンピュータ・携帯型・スマートフォンも含む)をしている生徒や携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしている生徒が6割近く、3時間以上している生徒が約3割いる。

## 3. 今後の取り組み

多くの生徒は、規則正しい生活習慣が身につく、学校に行くことが楽しいと感じて生活を送っています。また、いじめは絶対にいけないことで、困っている人がいれば進んで助けるという生徒が大変多く、友達関係に満足している生徒も多いことから、友人関係を大切にしながら、充実した日々を過ごしていると思われます。ただ、明確な将来の夢や目標を持っている生徒が少ないことから、進路相談などを中心として、きめ細かな対応や指導を心がけたいと思います。

学習面においては、国語・数学ともに学ぶことは大切だと考えている生徒が多いものの、記述式の問題や、深く考える問題を途中で諦めてしまった生徒の割合が高かったため、授業内容を再考し、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組み、学習の理解を深めていくようにしていきたいと考えています。

家庭においては、学習の時間も取れていますが、ゲームやスマートフォン等に時間を取られている生徒も多く、計画的に時間を使っていくことが課題と感じられます。また、新聞や読書の習慣がない生徒が多いことから、公民的分野(社会科)の授業の開始とともに、社会のできごとなどに関心を持ってほしいと考えます。今後も、学校と家庭との協力でより良い生活習慣の確立に努めていきたいと考えます。